中国の農民向けオンライン職業教育プラットフォーム
―「天天学農(Tiantian Xuenong)」の取組み―

主任研究員　王　雷軒

中国の農業人材育成および農業支援サービス分野では、近年、デジタル技術の普及と農地流動化の進展を背景に、新たな事業モデルの構築が進んでいる。こうしたなか、深圳市を拠点とする豊農控股(Fengnong Holdings)は、農業資材流通、農民向け教育、スマート農業などを展開するアグリテック企業として急速に成長している。本稿では、同社事業の中核を担う農民向けオンライン職業教育プラットフォーム「天天学農(Tiantian Xuenong)」の取組みを中心に紹介する。

1　豊農控股の事業展開

同社の起点は、2014年に創業者の閆子銅氏が農業資材流通の非効率性と情報の不透明性に着目し、オンライン資材販売プラットフォーム「大豊収」を立ち上げたことにある。18年以降は、農業技術サービスを担うオフラインチームを組成し、診断・処方・治療・管理を一体化した「ほ場の総合病院」モデルを構築した。

このモデルを通じて、農家のコスト削減と栽培技術の向上を支援している。さらに、農場経営者向けの農業生産受託サービスを展開している。受託案件では、栽培方法のマニュアルと販路開拓を通じて農場運営の効率化を支援している。

農業資材流通、農業技術サービスに続くスマート農業分野では、リモートセンシング、作物生育モデル、人工知能(以下、「AI」という)施肥・灌漑(かんがい)モデルなどを統合した「豊農智田」を開発した。農場の状態をリアルタイムに把握し、AIが農作業に関する判断・指示を自動的に行っている。

これらの事業のほか、農業技術などの学習の場を提供するため、農民向けオンライン職業教育プラットフォームである「天天学農」、農産物販売の電子商取引(以下、「EC」という)である「豊誠上品」を開設している。

特徴的なのは、教育事業が親会社の他事業と密接に連携している点である。豊農控股は、農業資材EC、生産受託、農産物のブランド化、販路開拓、投資事業を幅広く展開している。学びの場を通じて形成された農家や農業サービス事業者とのネットワークを活用し、資材販売や技術サービスの提供につなげる事業モデルを構築しているとみられる。

2　「天天学農」の取組み

(1)設立の背景と事業展開

天天学農は、17年に「農民向けオンライン職業教育プラットフォーム」として設立された。農地流動化の進展や新型職業農民(日本の認定農業者や大規模専業農家に近い)の増加、抖音(Douyin、中国版TikTok)などの動画共有アプリの農村での普及を背景に、農民の学習需要が高まるなか、そのニーズに対応するために設立された。

18年には天天学農アプリのユーザー100万人を獲得した。同社は早い時期からスマート農業研修を導入し、20年には農薬販売店経営者や防除専門員の認定制度を開始した。21年以降は、外部と連携し、新型職業農民の育成プログラムを展開している。

(2)事業体制と外部連携

同社資料によると、職員数は150名で、うち世界のトップ500企業の出身者が36％以上を占める。研究開発人材は34名(22.7％)にのぼり、デジタル技能研修を支える体制が整備

されている。専任教員20名以上に加え、2,000名以上の外部講師を擁し、院士(中国工程院や中国科学院の研究者や技術者に付与される最高位の学術称号)、教授、現場の農業技術専門家など多様なネットワークを形成している。

また、農業農村部(日本の農林水産省に相当)、中国農業大学や西北農林科技大学などの主要農業系大学と連携し、産官学連携モデルを構築している。地方政府向けには、「農民E-learning学院」や研修プラットフォーム「天天課堂」を提供し、広東省などで新型職業農民の育成事業を受託している。

(3) 教育基盤と研修プログラム

天天学農は、入居するビルの24～26階に研究開発エリアを設けるとともに、36階にはスマート農業実証用ミニ農場を設置するなど、総面積6,000㎡超の教育研修施設を整備している。研修プログラムは、指導・学習・実習・テスト・評価・認証・コンテスト・就業・創業支援までを含む、一貫した職業教育モデルを構築している。

具体的な領域は、①基本的な生産技術、②農業・農村観光・６次産業化、③農業経営者の資格認定、④スマート農業・農業機械化・植物工場、⑤市場動向・財務・農場管理、⑥農村EC・ライブコマースなど多岐にわたる。これにより、農業従事者は専門的な知識・技術を習得でき、農業生産性の向上や増産・増収につながるとされる。

3　「天天学農」の成果と社会的評価

天天学農は、国家ハイテク企業、広東省農民育成モデル基地、広東省科学技術普及基地など、多数の認定を取得している。同社資料によれば、農業関連の講座コンテンツは６万本以上に達し、オンライン上の「農民大学」として農業従事者の学習を支えているという。

19年には「学習強国」(党中央宣伝部が運営する学習アプリ)およびCCTV(中国中央テレビジョン)で専用の講座が採用され、全国の農業従事者に学習機会を提供した。21年には広東省の218万人に無料の研修機会を提供した。知的財産権では、設立以来、発明特許３件、ソフトウェア著作権33件、作品著作権98件などを取得している。

こうした技術開発力と実績を背景に、設立以来の累計サービス利用者数は800万人、企業ユーザーは５千社、協力専門家は２千人、対象作物は100種類以上に及び、同社は、中国有数の農民向け教育プラットフォームであるとしている。

4　総括

天天学農は、農民向け教育、デジタル技能の向上、新型職業農民の育成の分野において、中国有数の教育プラットフォームへと成長している。豊農控股の事業体系と連動しながら、農業資材流通、農業技術サービス、スマート農業を一体化した総合的な農業サービスモデルの重要な一翼を担っている。

動画やAIを活用して全国の農業従事者に低コストで学習機会を提供している点は注目される。また、スマート農業研修では実証用ミニ農場を併設して新技術を学びながら実践できる環境を整備している。これらの取組みは、日本における農業DX人材の育成やリスキリング施策を検討するうえでも参考になると考えられる。今後の動向を引き続き注視していきたい。

付記

本稿の執筆にあたり、「豊農控股」の銭永華最高人事責任者(CHO)および申暁峰研究員には、資料提供をはじめ多大なご協力をいただいた。ここに記して謝意を表する。

＜参考資料＞

・「豊農控股」ウェブサイト：https://www.fnholding.cn/
・「天天学農」ウェブサイト：https://www.ttxn.com
(いずれも2026年10月13日最終アクセス)

(オウ　ライケン)